

1. 平成30年度 営業概況について

当期のわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しましたが、その一方で、米国の通商政策による貿易摩擦の激化懸念を始めとする世界経済の不確実性の影響もあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

観光業界においては、西日本豪雨や北海道胆振東部地震等の甚大な自然災害や、台風21号による高潮被害で関西国際空港が閉鎖される等のマイナス要因が多かったものの、訪日旅行では、東南アジアを中心に好調を維持し、平成30年の訪日旅客総数が史上初めて3千万人の大台を越え、過去最高の3,119万人に達しました。

このような中、当期の立山黒部アルペンルートは、前期同様、4月10日に富山側の立山～弥陀ヶ原間の営業を再開し、4月15日には立山～信濃大町間が全線で営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、「立山・雪の大谷ウォーク」人気の継続により、4月の入り込み客数が過去最高の123千人を記録する等、順調な滑り出しとなったものの、続く5月は、荒天により大型連休中の5月4日に立山高原バスが終日運休し、その影響で前期を下回る結果となりました。6月以降は、北陸地方での観測史上3番目に早い梅雨明けやその後の好天、猛暑等が後押しとなり、好調に推移し、9月の度重なる大型台風の接近や初冬期の少雪も軽微な影響に留まりました。

旅客の内訳では、国内旅客においては、関電トンネルトロリーバスのラストイヤーを謳った各種施策が奏効したこともあり、大町入り込み客数が大きく前期を上回り、長らく低落傾向にあった団体客も、6年ぶりに上昇に転じました。この結果、国内旅客全体の入り込み人員が715千人（前期比107%、49千人増）となりました。

一方、訪日旅客においては、主要国である台湾、韓国が前期並みとなりましたが、特にインドネシアやシンガポールからの個人客が順調に伸び、訪日旅客全体では、過去最高の266千人（前期比101%、3千人増）となりました。

この結果、当期の入り込み人員は、合計981千人（前期比106%、52千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが459千人（前期比99%）、大町入り込みが522千人（前期比112%）となりました。

●アルペンルート入込人員実績

(単位：人)	平成29年度		平成30年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
入込合計	929,000	101%	981,000	52,000	106%
富山入込	463,000	97%	459,000	△4,000	99%
大町入込	466,000	104%	522,000	56,000	112%
＜国内・訪日内訳＞					
国内入込人員	666,000	97%	715,000	49,000	107%
個人	493,000	97%	535,000	42,000	109%
団体	172,000	96%	179,000	7,000	104%
訪日入込人員	263,000	113%	266,000	3,000	101%
台湾	136,900	99%	138,300	1,400	101%
韓国	32,400	185%	32,500	100	100%
香港	32,500	114%	30,300	△2,200	93%
タイ	16,800	109%	16,600	△200	99%
その他	44,500	155%	48,500	4,000	106%

※訪日入込人員は個人+団体の総数

※表示単位未満を四捨五入により端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

●ホテル宿泊人員実績（立山貫光ターミナル株）

(単位：人)	平成29年度		平成30年度		
	実績	前年比	実績	増減	前年比
ホテル立山	34,200	98%	33,400	△800	98%
弥陀ヶ原ホテル	17,000	91%	18,700	1,700	110%
宇奈月国際ホテル	21,400	91%	24,800	3,400	116%

2. 決算の概要について

●連結決算の概要

国内及び訪日旅客数は共に増加。団体客が6年ぶりに増加し、訪日客は過去最高を更新。3期ぶりの増収増益となった。

(単位：百万円)

会社名	連結			立山黒部貴光(株)			立山貴光ターミナル(株)			立山黒部サービス(株)		
	29年度 (百万円)	30年度 (百万円)	前年度比 %	29年度 (百万円)	30年度 (百万円)	前年度比 %	29年度 (百万円)	30年度 (百万円)	前年度比 %	29年度 (百万円)	30年度 (百万円)	前年度比 %
営業収益	/			3,707	3,833	103%	/			/		
運輸事業												
ホテル事業 ホテル立山				789	794	101%						
弥陀ヶ原ホテル				393	438	111%						
宇奈月国際ホテル				375	434	116%						
ホテル事業計				1,558	1,666	107%						
付帯事業	728	718	99%	1,220	1,254	103%	275	286	104%			
営業収益計	7,001	7,274	104%	4,435	4,551	103%	2,779	2,921	105%	275	286	104%
営業費	6,959	7,220	104%	4,421	4,509	102%	2,775	2,928	106%	270	285	106%
営業利益(△は損失)	41	54	131%	14	42	304%	4	△7	—	5	1	19%
営業外収益	61	56	91%	56	52	93%	11	10	87%	1	0	89%
営業外費用	38	36	97%	35	35	99%	2	1	70%	—	—	—
経常利益	65	73	113%	35	60	171%	13	1	10%	6	2	31%
特別利益	4	6	141%	4	5	129%	—	0	—	0	0	83%
特別損失	20	37	182%	16	0	1%	3	123	3406%	0	0	265%
税引前当期純利益 (△は損失)	49	42	87%	23	65	286%	9	△121	—	6	2	31%
法人税、住民税及び事業税	27	39	143%	24	38	158%	1	1	51%	1	0	24%
法人税等調整額	△6	△23	—	△13	△10	—	6	△12	—	0	0	220%
当期純利益(△は損失)	28	26	94%	12	38	319%	1	△110	—	4	1	22%
非支配株主に帰属する当期純利益 (△は損失)	0	△31	—	/			/			/		
親会社株主に帰属する当期純利益	27	58	213%	/			/			/		
総資産	12,840	12,580	98%	11,507	11,304	98%	1,993	1,941	97%	300	293	98%
純資産	7,293	7,311	100%	6,901	6,933	101%	1,124	1,099	98%	194	195	101%

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨て処理しております。